

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年6月3日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合) [No.18]

## 東労組の内ゲバ犠牲者への異様な手厚さ

内ゲバの対象となり得る革マル派活動家がすぐ近所にいたら...、と考えるだけでも恐ろしい。だからこそ、JR革マル問題を解明し、JRから革マルを追放することが必要なのだ。襲撃対象とされてきた東労組松崎元会長も「様々な党派から30年ぐらいにわたって、殺すということを含めた様々な襲撃のターゲットにされて...」と自ら証言している。

ところで、内ゲバ事件被害者について補足すると、前々号(No.16)の表中、1987年2月に中核派の襲撃を受けて重傷を負った佐藤政雄氏は、JR発足後はJR東海労組の委員長に就任したものの、集団脱退し新たに東海労(JR総連)を結成して初代委員長となり、その後はJR総連の福利厚生団体「日本鉄道福祉事業協会」の理事長を務めていた人物。西岡研介著「マンガローブ」にも「松崎の金庫番」などと書かれ何度も登場する。同協会には、松崎氏の「業務上横領疑惑」に深く関係しているのだが、その問題は改めて検証する。

なお、前号(No.17)の同時内ゲバで、本人は不在で難を逃れた「京力正明氏」は、東海労副委員長、JR総連副委員長などを務め、現在はJR総連特別執行委員である。同じく「文中恵氏」はJR西労組から分裂した西労(JR総連)の近畿地本委員長を務めた。

ところで、宗形明著「JR東日本労政『20年目の検証』」(p.33)によれば、2004年版「JR東労組手帳」には、内ゲバで死亡した役員のそれぞれの命日の欄に、「2/10 加瀬勝弘氏を偲ぶ日」「2/12 荒川一夫氏を偲ぶ日」「3/3 松下勝氏を偲ぶ日」「5/28 湯原正宣氏を偲ぶ日」「12/2 田中豊徳氏を偲ぶ日」と記載されているという。これら犠牲者に対しては、東労組とJR東日本との合同葬儀や、盛大な法要も営まれた。東労組高崎地本内には松下氏の銅像が建立され、会社も出席し除幕式が行われたという。情に厚いといえそうだが、一般組合員は異様に感じるだろう。なお、手帳には10月31日に「背信を忘れない日」、11月1日に「大弾圧を忘れない日」と記載されているようだ。前者は2002年に嶋田副委員長ら役員8名が辞任した日、後者はその翌日に浦和電車区事件で7名が逮捕された日である。

### なぜ？他労組役員の内ゲバ事件に特別声明を出すJR総連！

またJR総連は、過去、他労組役員の内ゲバ事件に対し、以下の特別声明を出した。中核派はこの内ゲバへの犯行声明を出し、S氏を「松崎と並ぶカクマルの最古参」と呼んだ。

1990年3月25日午後8時45分頃、埼玉県エーザイ労組本庄支部長であるS氏が何者かによって自宅で襲撃を受け重傷を負った。アゴ、両足に受けた打撃は大きく、特に右足は機能回復が困難なほどの傷を負っている。-(中略)- JR総連は、S支部長の痛みを我が痛みとして感じ、この事件の社会的な抹殺を許さないため、事件の真相解明と犯人逮捕を関係当局に強く要請するものである。JR総連と15万組合員は、S支部長の1日も早いご回復を祈るとともに、一切の暴力を許さず、真の民主主義確立のため奮闘することを、ここに明らかにする。

JR総連は、さらに臨時大会で「襲撃を糾弾する特別決議」を採択したというから驚きだ。当該労組の依頼があったはずもない。常人には理解不能なこれらの対応は、JR総連・東労組の幹部が、労働組合としてではなく、革マル派の立場で動いているとみなければ説明がつかない。JR総連への革マル派浸透の疑惑はますます深まるばかりだ。